自撰文稿
伊地知文庫
文庫20
307

文庫20
307
1

のこらぬせきもりのうらぶねこぐこゑ
ふかとよりこがりひて春さめしぬをかほうり
きぬがとりこゑ死と海ぶねとをしも先後の
うのこゑみあしこそてこぐこゑあるこの世界
よこ海のきさと十箇所海つしめ海ふさ
心くとん海ひきぶり海より山人の薪とあるる
さうぬ代はぶまこさうぬでもこるるぶれ
まあるこす薪とあぐもくんのこをほうり
きぬあるはこんこうの薪とけつひぐるよ見せ
しせ海ひうるぶ海ぶうのふれを言ふ

のぬ代ぶまりこまてあんえ老るその事ぶさうの咲
とを山名ぬ海ぶらうぐあて部をはまあ者さ
むぬしの薪ぶりうこうこうこうぬ山ぬ
月のひまでもこ人のぬ文ぶりるこうあ神
のんをなこ山んをものあをうなぐもるか
里くぶ神のこうぶうこく海ぶをぬ代ぶうぬ
ぬうこうこうぬ代ぶりぬ代月ぶ清く
こうこの者なこみまこあこいこうこあぐうある
うりあこ山あこく炭こうぬ炭ぶうぬ月ぬ
神ぶうこうふ海ぬ月ぬ
神ぶうこうふ海ぬ月ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きぬ〻あるとをりいぐさを張りて時代の風
の筆あらせふ今させ張りまた志うあまをこそ
〻のえ〻びなりひきれまてそ地ちうに
をぐひをもてしまやいとゆゆとをひきるへ
ゆあふかきのもあまきらまきのあひあ
〻もそそぶらうとうごんじていとへん
〻知り張りとうぞ〻ぐいをもも
りきるとなん陽りもひとをあ
あせちりこふむぢ〻ぬ其あるもかし
あうせさらきるそもの和多のう〻〻た

ちじをあとをうりちを敷あるう海か
をもをあやとおぐわんそをのかのみことをいぢを
角へぐをとをやえしうをちをを申よいを
とをいけかのをとををまんぐーをとの
熱にあをせり人あはくをせるる鯛ふ
てぐちうう〻ばたをうこのわは
をををさうあぐてをるいみ〻へをあのこと
いひとをとにををあられかぐをのごくに
のをならあをぐちりれををうをぎをいの
をれをもをりあはひんるめづ〻をを

今はむかしの事なれども小こそでの川
にて源宗氏と共にあそびとして
ふるきのひのぐをもつて侍りぬれ
ふるこそ

自讃奇語上

太三天皇

ここらこころとゝまれども
なほくしの日をのぬいつる邦

まの日あるほのふうをみるとゝまれ
こゝろをたゞあるこゝろにまかせ
のこゝろ　旦月の色もまさぐら
おのながくし和歌をおもんとも
とゝまくのをぐるせるこゝろ
をのをくるをもぐるこをかり
なるもながくしいにまれとゝ
かれさ四人をうの奇をもて毎をの
のかをむをかをこゝろをとゝまく
見ぬ物をふるこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ある海より　元日まで

きりさらとして人りそ[illegible]

[illegible]

いとさらさとしたる[illegible]

月日海ぞてとは

こゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なぐ月のありけれ月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小家とてあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月さへ雲にかくれぬる海ちかく
ひかりぬるかたぶくかぜの山のくれよ
ふきこしの風にはかの奥の志ほさゐ
ぐるひかりのかげもぬるしほさゐ
峯こしの雲にはかの奥の志ほさゐ
月にかたぶくかぜの山のくれよ
雲にかくれぬる海ちかく
なみのうへにこそ月のひかりぬる
なみのうへにこそ月のひかりぬる
ふかきうみのそこにこそ月のひかりぬる
はるかなるやまのかぜにこそ月のひかりぬる
なごりなくこそ月のひかりぬる
雲にかくれぬる海ちかく
こゝろのうちにこそ月のひかりぬる
おもかげのうへにこそ月のひかりぬる
とゝの歌にこそ月のひかりぬる
ものゝふのやまとこゝろにこそ月のひかりぬる
ものゝふのやまとこゝろにこそ月のひかりぬる
月にかたぶくかぜの山のくれよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てをたゝぬ法なりとぞ
ぬこゝろをしるべきなり
しるべきなり
しるべきなり
し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかふして神うむらの光面もまれん
こそ牛一の月さ面をそなて物と
このうくいたりなる世ばの里ふる心
うの雲井とかりかてらんまりや
たちあとをたくはくいとかりの秋山の
うもをたうもとをたうもとをたうもと

世の常なれば、うたに山の[illegible]の[illegible]ふ
といふるうらなかこそ[illegible]ふりと[illegible]る
[illegible]ばかりしくこそ[illegible]ばづふとこそ
いふべくばかりや[illegible]の[illegible]
いとくばかりこそ[illegible]
[illegible]人あり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の事ゆえにかの[illegible]
[illegible]
て小屋のあし[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なほ四ふあまりよ海さとうしたてること
こころんとうの海をよ流りあるもの
をうまぐ花ぬらもをもとうの海をと
四ふまりなりもとうこと寄ふとうしば
はるく海ぐをうこと波ぐなりもとうるな
ひとさまとうとうをうりなしりとふ
をうをうの海ぐをうもとうめぐうく
とやーをうまぐやうをうふ海うぐう
うの旬うよぐうしうりなりをうしうぐ
かりをうなり天悔あり海うなりもぐ

あ海ぐうとうくうしりあ海をうをうをうなし
悔ぐうとくをうしりあ海ぐうをうしば遠ば
なぐをうふーうこと大うのをのうあうをうこと
とうをうなうけりのをうくうひなうしうべうま
くうを海ぐ海ぐうを海ぐうをうしりをうこうを
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人をあり通夏妻なり

なるべしとて月ぜ屋どりを

そしらむしりの神乃なりみぐり

[illegible]十四首の[illegible]合よまし

の恋[illegible]

[illegible]

そしらむしりの神よ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月讃歌 頌下

加茂郷

加茂なる賀茂の君の名のらるに
[illegible]
心ものどかに
[illegible]
[illegible]
こいふり[illegible]
こ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又或頃[illegible]

きとりまして風[illegible]

立田川あしやの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やがて四へ位新位さて
扨こそ小袖のあさはかなる
ひてくしなみやうこん
海道筆をまるとも
なり位こそ神にまるやとぶらく
乃書りて扨
物ありてこそ大こうの家よりこそ
ゆるまでゆる秋のまつと
ちゑのさかりひの家のもとまで
こそ物ゆるちゑ物

ゆるまでゆる物ありてこそ秋のまつと
四ちうる面まに
人ものとまとそ扨ちまつ
さびしつも四ちまつ
月とぼそこそ物ありけのそこ
ちゑを扨ちゑ
なりまつ物ちゑ
とくとどもに四ちまつ
扨所ありいとこそ
位新ちゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何事ぞ今はる苔むすまでかくばかりなる
人をしのぶとなるべきものとおもふ
ひとりゆきぬるとかぼそくなりてこの
屋敷をとりこぼちてこの
いふかたもなかりしかばこの
松のひとりとのこりたるを
あるいは被ぬ被物をあるは
うりもとめうりもとめ
うりあるべしこの
うりあるべしこの
うりもとめうりもとめ人と
思ひしかのうらにきふ

あるこまものをかきうらにけなりひくにけなりと松
ひとりなりみりの何うらにはなりまつばかり
いばかりなりも
うりもとめいとまもなくうりもとめ
なりもとめうりもとめ
ひとりの三度りにかはりかやの
ものとなりぬ山もとをとこいろるこうらなりまで
毎日こうりていたりまつばかり
やはりもとめうりもとめ
きうり思ひしかのうらにきふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

或詠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月は都の空あてはるかに
杉の梅の花ならねどかをり
ぬるや夜半の春風
あかつき月の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

成頭ヶ山家ヶ張ひしてあり月代

[illegible]

北風をまげ雲れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今あぎつる秋は雲の月
難波江は月のうつるふさて極うん月を
みすまるそうたなりわすれ月雲の北嶺は
なごりさ（おぼ）ぎ（ぎ）ぎりぬ（ぬ）ぎ（ぎ）
むらさきの秋
なごりぬんふ（ふ）ぎ（ぎ）で霧やかるるん
月まし（ぎ）ぎ（ぎ）あ（あ）れ（れ）ぎ（ぎ）
これを海の色眺めは月さん波
のゆふ（ふ）ぎ（ぎ）秋ぬ（ぬ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
かぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）

なるあるそ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
人ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
あ（あ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）
ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）ぎ（ぎ）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てさくらにうぐいすなくやまぶきの花とかをる

みをかくらはさくらの花の色はあはれむしさくら

此外前の事ゑの外ハ首あり

一ゑ也ゆゑあり

或説ハ日枝ゆゑ

さくらの雲ハ

ゆゑ

白雲の

白雲の

山ハ

山ハ

雨雲ハ

雨雲ハ

雨雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なくなりぬとてこれをとりて
したりしを又武蔵
せぬ事なれいつ
第九月もとび
なりしかの時の夏のかりひら
ものうらみをもしてあれ
ぬぐふいまぐはしてと
まつ夏をたづねしこたり
今はさてはまの屋もうらびぬ

兼盛法師

ものがたりの月雪花のなかめ
人をまちかねたるうらぶ月を
ながめるたりしかのあく山のをみえくしき
ものしをもとめ海をいとうるおもしあるを
ものをもとめ海のうらぶ
屋のうらひらてをかりかり
ぬるうりぶくをさくをひ
ぬぐをそそうらびぐりぶ屋
人をつきをとるしやう六百歩一尋合りまを
のりぶより帝数あくはあ申ふをやを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひさかたの雨とまりする秋の夜に
こゝろのゆくへ思ひやるかな

ひと夜の名残の雨ぞ秋の夜の
その夢ぢをたゞ一ふしとこそ

色もなき雨の雫は色ぶかく
紅葉ぬれ行く秋の夕ぐれ

さびしさもそこ迄とこそ思ひしか
まさるこゝろの秋の夕ぐれ

時雨ぬ秋の紅葉ぞ
とゝまらぬ物とこそ思ひしか

さびしさは
うらみぬ人の心にぞ
なりにける

なにとなく
さびしさまさる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菅原[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人のごとく
[illegible]海[illegible]
[illegible]源
[illegible]
[illegible]
[illegible]神[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]八首[illegible]
[illegible]のちる[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のふくあらじ仏なくらんかぎりは
法華経拾改はいかにあるべし
仰せられたり
こうぐ[illegible]
[illegible]
此事[illegible]
[illegible]
なりもあるべし
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きんだん其音人事一ニ

右一冊八武人之明き十六乃ての歌
ほひ予よ意命記録ニ
志ゝ志切小不法世音恵乃
激命武器ひ勝侍乃と粗是
状頭志ゝ
邪見和歌へ

宗祇立判

37